

# 「発見!水の文化」が始まりました!

Webで公開中!

ミツカン水の文化センターは、2017年から新たなイベント「発見!水の文化」をスタートしました。これまで開催していた「里川文化塾」を、もう少し身近で、より気軽に参加できる内容に一新したものです。まずは第一回「江戸の水辺街歩き(日本橋編)」、第二回「感性を刺激する滝鑑賞」の様子をご報告します。開催レポートはWebで公開中です。第三回以降もご注目ください! <http://www.mizu.gr.jp/hakken/houkoku/>

## 第1回 江戸の水辺街歩き(日本橋編)

—2017年7月22日(土) 13:00~16:30

講師: 斎藤 善之(さいとう・よしゆき)さん 東北学院大学経営学部 教授



日本銀行と貨幣博物館に挟まれている駿河町

今も東京に残る「江戸の水路・掘割の跡」。それを巡ることで、江戸時代のまちづくりにおける「舟運・水」の重要性と、今に受け継がれている「水の文化」を再発見するため、日本橋~茅場町のエリアを歩きました。

案内役は東北学院大学経営学部教授の斎藤善之さんをお願いしました。当日の参加者は19名。7月の太陽の下、時折そよ風に癒されながらの散歩となりました。

「江戸の水路・掘割」といっても、今は埋められているところが多いため水辺だけではありませんが、浮世絵などを手がかりに、かつての姿を想像しながら楽しく学ぶことができました。



隅田川で佃島を背にしてまち歩きは終了



一石橋で解説する斎藤先生

## 第2回 感性を刺激する滝鑑賞

—2017年9月2日(土)、9月30日(土) 13:00~16:30

講師: 坂崎 絢子(さかさき・あやこ)さん 滝ガール



東京都で唯一「日本の滝百選」に選ばれている「払沢の滝」

13:00  
JR 武蔵五日市  
駅南口集合

払沢  
(ほっさわ)  
の滝

中山の滝

16:30  
JR 武蔵五日市  
駅南口解散

音、しぶき、温度、流下する水の迫力あるビジュアル……滝にはさまざまな水の魅力がぎっしり詰まっていて、心の活力を回復するチカラがあるといえます。

そこで、東京から日帰り楽しめる檜原村の滝を巡りました。檜原村は地形的に滝が多く、「はしご滝」も可能な場所なのです。

今回は、あまり知られていない滝の魅力を発信しつつ「滝ガール」こと坂崎絢子さんと一緒に滝を巡り、五感を刺激しながら心の回復力を得る滝鑑賞のヒントを教わりました。

思い思いのスタイルで自由に滝を楽しむ参加者たち



秋川の本流にかかる「中山の滝」。落差は1mなので滝の定義(注)からは外れますが、地域の人々は今でも滝と呼んで親しんでいます

(注) 滝の定義  
流水が急激に落下する場所で、落差が5m以上あって常に水が流れているところ

# 水の文化 Information

## ■「水の文化」に関する情報をお寄せください

本誌「水の文化」では、今後も引き続き「人と水のかかわり」に焦点をあてた活動や調査・研究などを紹介していきます。

ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根ざした調査や研究がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

## ■ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください。

<http://www.mizu.gr.jp/>

## ■水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページからPDFファイルとしてダウンロードできるほか、冊子をご希望の方はホームページの「最新号のお申し込みボタン」からお申し込みいただけます。どうぞご利用ください。

## ■里川文化塾レポート詳細版は、ホームページで

里川文化塾のレポート詳細版は、参加できなかった方も楽しめる内容です。また、今後の「発見!水の文化」についても、順次ホームページでご案内します。ご注目ください。

# 皆さまの感想を お待ちしております!

『水の文化』57号について、アンケートにご協力ください。  
今後の機関誌をよりよくしていくための参考にさせていただきます。

◆アンケートへの回答はこちらから。

<http://www.mizu.gr.jp/form57.html>



※アンケート用紙をお持ちの方は、FAXまたはメールにて  
下記へご返信いただく形でも結構です。

FAX: 03-6685-7596

メールアドレス: [tokyo-office@mizu.gr.jp](mailto:tokyo-office@mizu.gr.jp)

## 編集後記

取材中に「発見!水の文化」の下見もあり、深川や隅田川、江東区の掘割を集中的に歩き、クルーズして回った。感じるのは水辺のパワー。明日への活力をくれ、特に穏やかな掘割は優しく心に寄り添ってくれる。これが、江戸時代・現代問わず人々の原動力になっているんだな、と勝手に納得したのでした。(松)

夏の日、木場公園で散歩すると水が溢れているプールの中に子供たちが丸太の上でグルグルと落ちないように足を動かしている。この地域の中心だった貯木場が東京の発達につれて移動させられたが、木場の面影が深川のあらゆるものに現れている。町中にあるコーヒーマートの香ばしい匂いには材木倉庫の再利用方法が見えたり、公園の小さなプールには、角乗の技術の新しい可能性が見えたりする。江東区民生活2年目の自分。雨の日の帰り道、木の匂いに囲まれるこの町が今回の取材のおかげで益々好きになってきた。(IM)

里川文化塾で染色を取り上げた際にも江戸のことを学ばせて頂いたが、本来「かつての江戸」と言えるのはイースト・トリーキョーなのだ改めて感じた。私は地方出身者なので江戸っ子に少し憧れる。素晴らしい「粋」や「意気」が、どうか未永く受け継がれていきますように。(原)

私にとってのイースト・トリーキョーは、隅田川の花火大会。中吊り広告が電車内に見られるようになると、夏を感じる。近年は浴衣を着て花火を鑑賞する人が多い。その時代その時代の楽しみ方がある花火大会。次はどのような楽しみ方があるのかワクワクする。(吉)

今回のエリアからは外れるが、別の企画で巡った旧中川は、都心とは思えないほど緑に溢れていた。水辺に近くなだらかにアプローチできる河川敷は、大勢の人で賑わっていた。東京だと開発や整備の印象が強いが、そういった柔軟さも江戸時代から続く気質なのか、東側の懐の深さを感じた。(力)

今回の特集は企画段階から多くの方々にご協力いただきました。「江戸時代の浅草を取り上げるなら新吉原遊郭を避けてはダメだよ」と背中を押してくださいました民俗学者の神崎宣武さんをはじめ、皆さまに感謝しております。柴又帝釈天のそばで生まれた者として、この号が東京の東側に興味を抱く一つのきっかけになれば嬉しです。(前)

## ミツカン水の文化センター機関誌

# 水の文化 第57号

ホームページアドレス

<http://www.mizu.gr.jp/>

### 発行

#### ミツカン水の文化センター

〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中塾ビル4F  
株式会社 Mizkan Partners  
Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578

### お問い合わせ

#### ミツカン水の文化センター 事務局

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-11-3 中銀NM・5F  
Tel. 03 (6264) 9471 Fax. 03 (6685) 7596

### 発行日

2017年(平成29)10月

### 企画協力 (氏名50音順)

沖 大幹 東京大学生産技術研究所教授  
古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会  
陣内秀信 法政大学教授  
鳥越皓之 大手前大学学長  
中庭光彦 多摩大学教授

### 制作

松本裕佳  
Milana Irene  
小林夕夏  
原田朱野  
吉田奈保子

### 編集製作

前川太一郎 編集  
中野公力 デザイン・撮影  
蔵田 豊 デザイン

### 執筆

秋山健一郎 (pp.12-13)  
佐々木 聖 (pp.14-15, pp.24-33)  
手塚ひとみ (pp.8-11, pp.16-17)  
開 洋美 (p.34, pp.42-44)  
前川太一郎 (pp.6-7, pp.18-23)

### 撮影

大平正美 (pp.24-25, pp.42-44)  
葛西亜理沙 (pp.8-11, pp.14-15)  
川本聖哉 (pp.6-7, pp.12-13, pp.21-23, p.34)  
鈴木拓也 (pp.2-5, p.20)  
中野公力 (p.6)  
藤牧徹也 (p.16, p.18, p.21, pp.28-33, pp.38-41, pp.45-49)

### 印刷

中塾総合印刷株式会社